

# 令和3年度第2回日進市わたしのまちのしあわせづくり委員会

## 議事録

日 時 令和3年12月24日(金) 午後2時00分～午後4時00分  
場 所 南庁舎2階 第5会議室

出席者 <委員>谷口功、長谷川純、小池由成、神野建三、大野忠夫、  
(敬称略) 大津正仁、山田幹雄、興梠精視、成田ゆき江、幸村朋子、  
井口紘一、数井美津子  
<事務局>市:伊藤あゆみ(健康福祉部担当部長)、加藤誠(地域福祉課長)、  
緑川知子(同主幹)、西尾直樹(同補佐)、新海洋人(同主査)、  
中村聡美(同主事)  
社協:伊東幸仁(事務局長)、天野典幸(包括支援課長補佐)、  
江崎香利(地域福祉課長補佐)、富岡亜希子(同係長)

欠席者 秋田有加里  
(敬称略)

傍聴の可否 可

傍聴の有無 3名

次 第 1 あいさつ  
2 議事  
(1) 地域活動団体調査について  
(2) 市内における地域福祉活動の状況について(報告)  
(3) 重層的支援体制整備事業について(報告)  
3 その他

事務局 定刻になりましたので、令和3年度第2回わたしのまちのしあわせづくり委員会を開催いたします。本日は、1名の委員がご都合により欠席のため、委員13名のうち、12名の方が出席されております。会の成立には半数以上の出席が必要となっており、本日の委員会は成立します。

でははじめに、健康福祉部担当部長であります伊東よりあいさつを申し上げます。

(健康福祉部担当部長あいさつ)

続きまして、谷口委員長よりご挨拶をお願いします。

(委員長あいさつ)

それでは議事に入る前に、会議資料の確認をお願いします。

(資料確認)

それでは、これからの進行については、委員長をお願いいたします。

委員長 本日3名の方が、傍聴を希望しておられます。日進市市民参加及び市民自治活動条例施行規則第16条の規定に基づき、会議を公開とするのか非公開とするのかを決定します。本日の議題は次第のとおりです。審議の段階で個人のプライバシー等明らかに公開するのに適当でない事項の審議はありません。会議の公開についてご意見がなければ、第10条及び第11条の規定に基づき入室を決定したいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、傍聴者をお通しします。

議事(1)「地域活動団体調査について」について事務局から説明をお願いします。

事務局 (地域活動団体調査について資料1を使って説明)

委員 計画の策定時には、市にプロジェクトチームがあったと記憶しているが、現在も存続していますか。あれば、アンケートを作成するにあたって、そのプロジェクトチームが関わってどのように検討が進められたのか教えてください。

事務局 策定時のプロジェクトチームはすでに終了していると考えております。調査の案については地域福祉課で作成し、市民協働課や生涯学習課などには、地域活動団体同士の連携協働状況を把握するためのアンケートを行いたいという趣旨を説明し、内容の確認等を依頼する形で連携しました。各課の協力を得ながら調査を実施する予定です。

委員長 今回のアンケートは、にっしん幸せまちづくりプラン第7章の計画の推進に基づ

き、今後の推進体制を作っていくために実施すると把握しています。地域ネットワークがどのように張り巡らされているのかを改めて確認し整理するためのアンケートという認識で合っているでしょうか。

事務局 ご指摘のとおりです。

委員 アンケートの実施目的はたすけあい会議を設置するためだと理解しています。アンケートに、たすけあい会議の説明と実施目的を記載してください。

調査対象団体に、民生委員と地域学校協働活動のコーディネーターを追加してください。

令和6年度末までにたすけあい会議を3つ設置する計画になっていますが、このアンケートを基礎として、どのようなスケジュールで設置していく予定なのかを教えてください。

アンケートの中身について、区と自治会と一緒に記載されている項目がいくつかあるが、区と自治会を分けてアンケートしてください。区とは強い繋がりがあるけど、自治会とは繋がりが無い場合もあると思います。

設問6で協働という言葉が出てきているが、地域住民にとって協働という言葉は聞き慣れないので、協働とはどういうものか注釈を入れてください。

つながり、協力、協働という3つの言葉を使い、関係の深さを知ろうとしていると思われるが、たすけあい会議には、関係の強弱よりも、地域の課題が出てきたときにどの組織と連携しているかが重要になるので、それを質問する項目を入れてください。

設問9について、地域住民の中には社会福祉協議会のことを知らない人もいるので、注釈等をつけたほうが良いと思います。にぎわい交流館とのつながりも聞いてください。

調査表は地区ごとに集計すると説明があったが、19区という認識で合っているか教えてください。また、たすけあい会議は3圏域での設置を予定しているので、その単位でも集計した方が良いと思います。

繋がりの状況は、団体同士の繋がりを個別に確認し、繋がりの弱いところを繋げていくといった見方をする必要があるように感じます。その部分についての集計方法を教えてください。

事務局 アンケート調査は、地域福祉計画の推進のために地域の活動団体の現状を把握することを目的としています。たすけあい会議の設置に向けた第一歩という意識は変わっていないが、たすけあい会議の設置を行うためだけの調査ではありません。表現の仕方については、改めて検討します。

調査対象について、市では各地区にある活動団体といった組織の調査を考えています。他の委員の意見も伺いながら、民生委員や地域学校協働活動のコーディネー

ターを調査対象に含むことは、地域活動において市民の支え合いという形で必要不可欠ということであれば検討します。

スケジュールについては、以前の会議でも示したとおり、計画最終年度にたすけあい会議を3つ設置する目標は変わっておりません。

区と自治会をまとめて項目にしている点については、改めて検討します。

協働や協力といった言葉については、文言を統一できるよう検討します。

社会福祉協議会の注釈について、社協を知らない活動団体もあると思うので、追加するか検討します。

にぎわい交流館については、どの活動団体を調査対象にするかによって変わってくると思います。例えばNPO団体を対象に含めたほうが良いということであれば、NPO団体と関わりの深いにぎわい交流館を加える見直しは適当だと考えます。

19区を区ごとに集計する予定です。団体同士の繋がりや、調査表の地域活動団体調査結果に記載した図のように、線の太さなどで表現する予定です。それぞれの調査項目にコメント等を入れ、繋がり方を紹介する方法も検討しています。

委員長 調査表という言葉については、集計表や報告書に直したほうが良いと思います。先ほどの委員の意見は、この調査が無駄にならないようにするために、きちんと目的を示すといった貴重なものでした。どうして地域ネットワークや協働ネットワークを形成しなければいけないのかということ、SDGsをはじめ誰一人取り残さず、支援が行き届くようにという意味があったかと思います。誰一人取り残さないというのは福祉分野だけでなく、日進市全体で掲げていることだと思うので、そのための支援ネットワークの形成を目的としていることを意識化するような一文を付け加えると良いと思います。福祉活動計画の推進のためには目的が不明確です。対象団体については、にぎわい交流館や社協、ボランティア連協に関わっている団体をどこまで含めるのかを、改めて他の委員に確認する必要があるように感じますので意見をお願いします。集計については、19区を示したうえで、最終的には協働ネットワークにつながる2層に該当する3圏域でも示してください。

委員 アンケートの最初の設問に規模という言葉が出てくるが、どういう思いで地域活動をしているかを聞く設問の方が良いと思います。

委員長 最初に属性を聞いてしまうと、答えるときに抵抗を持ってしまいます。規模といった組織の概要は最後にし、活動の理念や目的を最初に聞く方法もご検討ください。

委員 個人ではなく区が持つ団体にアンケートをとるという認識で合っていますか。

事務局 各団体の長にあてたアンケートを予定しています。

委員 各区が NPO を含め持っている団体すべてを網羅しなくてはならないということですか。

事務局 例えば区長には、区として設問内容にお答えいただきます。老人クラブには改めて老人クラブに依頼をする予定です。それぞれの団体がそれぞれの団体に関する返事をいただければ結構です。

委員 調査期間が1～2月に設定されており、委員の思いをアンケートに反映し、委員が団体にアンケートの説明をするには、期間が短く不安です。アンケートの目的を読んで、各団体が自分ごとにできるのかにも不安があります。各団体が支え合い、繋がることで、日進市の今後のしあわせづくりに繋がっていくことが伝わらないと思います。

委員長 アンケートをすることが目的ではないので、アンケートの実施期間の見直しも検討してください。

委員 調査期間を1～2月に設定した理由を教えてください。

事務局 本日の委員会の意見を踏まえたうえで最終作成し、完了後すぐに実施を想定しているため1月開始としました。アンケートを返送していただくまでの期間を2か月間と想定し、2月までとしています。

委員 年度初めに向けて、多くの区や団体の長が変わってしまいます。団体の地域の活動状況について客観的に資料を見てアンケートに回答するというよりも、長の俗人的な判断がかなり影響してくるために、長が変わった4月以降に、アンケートの結果がどこまで有効なものか判断がつかなくなるという不安があります。

委員 アンケートを集計しても、各団体が抱えている地域の問題が見え、解消できるイメージができません。

委員 計画の中では、共生社会を目指しており、そこには障害者も含まれます。障害者の意見が反映されるような設問がありません。

委員長 まずアンケートの集計結果で、どんな団体がどこネットワークを形成しているか、そのネットワークの強弱はどうかといった事実確認ができると思います。年に何回会うといった数値的なものに加えて、具体的にどんなネットワークが繋がっているのかといったような質的なところまで確認できると良いです。個別の聞き取りも検討してください。ネットワークを作るためには、様々な当事者がいる

中で、あまりにも調査対象が少ないのではないかということは最初にも指摘がありました。他はどうでしょうか。

委員 調査対象に市内の事業所も入れていただければ良いと思います。若い世代の人が市民活動や地域活動に興味が出るようなもの、各事業所が抱えている問題点分かるようなものになれば良いと思います。

委員長 団体としてこういった問題を抱えているので、行政もしくは関連団体に相談したいかどうかを聞くような設問であれば、具体的に支援の手を伸ばすことが可能です。悩みを聞くような質問項目を検討してみてください。

委員 老人クラブや子ども会、自主防災会といった団体は、自治会の中で活動しているので、各団体にアンケートをとっても同じ答えしか出てこないと思います。

事務局 地域によっては、区の組織の中に各活動団体が入っているところもあると思います。団体によっては同じ人が回答するような形になってしまうが、それが地域の特色であるといった貴重な資料になると考えています。

委員 地域ごとに組織図みたいなものができると良いと思います。1つの大きな団体の中に入って活動しているのか、自治会は自治会、老人クラブは老人クラブといった単独で活動されているのかが分かるような形になると良いです。

事務局 多くの団体は郵送での調査を予定しているが、区は訪問して話を聞きながら調査をする予定としています。そういった点についても、各地区に確認したいと思います。また、各団体が抱えている課題を把握することは、どういった支援が必要とされているか確認するうえで大事な点だと思いますので、質問方法について検討してみます。

委員 障害福祉を進めていくためにも、市民協働課や介護福祉課にアンケート作りに参加してもらうことはできないのでしょうか。

事務局 アンケートを考える上で、他課にも確認していく予定です。今回のアンケートは高齢・障害・子育てといった福祉分野に限らず、活動状況を確認するものを想定しています。

委員 にっしん幸せまちづくりのプランは、日進市全体の福祉について定められているにも関わらず、各課が参加できていないことに疑問を感じます。

事務局 現時点で地域福祉計画の推進に関する各課連携の組織はありませんが、議題3で報告する重層的支援体制整備事業を検討していく上では各課との協力連携の仕組みが必要ではないかと考えております。

委員 調査対象に、子育て支援センターも含めたら良いと思います。

委員長 調査対象を広げることも検討してください。

委員 団体の規模という質問がありますが、一人の人が複数の団体で活動していることが多く、規模はあてにならないのではないかと思います。こういった実情を理解した上で考えていかなければならないと思います。

委員長 今のご指摘を確認するには、ご自身としてどれくらいの団体と関わっているのかといった自身の問題として聞く項目を加えると重なり具合が見えてくるかもしれません。当然重なっているところも含めてどう理解するか、結果を見ながら確認していく必要があります。

委員 重なって活動している人がいることで、どちらの活動も盛り上がる場合があります。こういう状況はなかなかアンケートで把握できないと思います。

委員長 上手くいっている例をアンケートで確認するのは難しいかもしれませんが、自由記述で気になること、頑張っていることを教えてもらうのも良いと思います。それでは次に、議事(2)「市内における地域福祉活動の状況について」事務局より説明をお願いします。

事務局 (市内における地域福祉活動の状況について、資料2を使って説明)

委員 今年度から地域学校協働活動は始まったばかりですが、手ごたえを感じています。赤池小学校では、ポスターでサッカー部の指導をお願いしたいと知らせたところ、2人応募してくれました。学生時代に学校に携わったことで、今何か違う形で関わりたいという思いを持ってくれたことが非常に嬉しかったです。このことが、多くの人に伝染していくといき、学校協働という形を作りながら、声の掛け合い方ができていくのではないかと思います。

委員 今の例のように、学校側から情報を発信してくれると分かりやすいです。

委員長 学校を拠点にしたまちづくりやたすけあい会議のような仕組みづくりが全国でも起こっていますので、この接点を見いだせると良いと思います。

委員 地域福祉取組状況概略図の移動支援に買い物支援は含まれているのか教えてください。五色園も件数は少ないですが、動き始めています。

事務局 五色園がワンコインサービスと買い物支援を始められたことは聞いています。コロナの関係で実績がないと把握していましたが、実績があるとのことなので訂正します。

委員 健康体操はどの分類に含まるか教えてください。

事務局 にっしん体操スポットのみを概略図上で示した記号はありません。ほっとカフェやぷらっとホームなどに限定しています。

委員 地域学校協働活動は4中学校区に設置されており、たすけあい会議のエリアと同じような線引きになっています。たすけあい会議を設置する際に、地域学校協働活動とどのように一緒にやっていくのか考えがあれば教えてください。生涯学習課は将来的に何を目標として設置しているのかも分かれば教えてください。

事務局 地域学校協働活動は地域の支え合いづくりとして、学校の活動を主体とした形で進んでいくことにはなると思います。議題3で説明する重層的支援体制整備事業の地域のプラットフォームの中の一つの働きになってくるのではないかと考えております。生涯学習課の将来的な目標は確認しておりません。

委員 概略図に記載されている岩根の地域住民による支え合い検討についてご報告します。今年度、支え合い活動検討会を立ち上げ、約5名の仲間が集まり、地域の状況を把握するためのアンケートの実施を計画しました。7月には、自治会の協力を得て家事支援と外出支援という2つのカテゴリーについてのアンケートを実施し、アンケートの結果をもとに、市の車を借り買い物支援を実施することになりました。現在、具体的なルートや時刻表の検討に入ったところです。

委員 NPO 法人では、住民参加の地域づくりをしています。まず、地域の中に大きな課題がたくさんあることを理解していただきたいです。NPO 法人として感じてきた地域課題を列挙し、それを基にアンケートで取ったところ、積極的に参加して下さる方も少人数ですがいました。必ずしも人数ではなく、地域の中で重なって活動されるような人が、地域の力になって進んでいくのだと思います。民生委員が関わって、ほとんどの地域でサロンやつどいの場は設置されていると思いますが、全区にできているのでしょうか。

事務局 つどいの場の地域分布については、概略図のとおり東部にありません。人口密度を考えると若干違いもできますけれども、地域の偏りがありますので、つどいの場が増えていくように地域の方とともに考えていきたいと思っていますところでは。

委員 子育て支援関係のつどいの場に代わるようなものが赤池地区に欲しいと伺ったことがあります。そういったものをどう作っていくのかは、住民だけに任せてはいけない課題としてあると思います。

委員長 住民もやらなければいけないけれども、計画に基づいて制度でどう担保していくのかは、考えていかなければいけません。日進市全域を網羅できるような制度づくりが、たすけあい会議の設置や地域ネットワークを作ることだと思います。そこを重層的に、課を超えた形で支援のしくみを作ればと思います。それでは次に、議事(3)「重層的支援体制整備事業について」事務局より説明をお願いします。

事務局 (重層的支援体制整備事業について、資料3を使って説明)

委員長 1点確認ですが、国は具体的にやらなくてはいけないモデルを示しているわけではなく、あくまでも市町村が独自に支援体制を作りなさいという考えでよかったですでしょうか。

事務局 任意事業という形で、相談支援・参加支援といった地域作りに向けた支援をセットにして取り組む必要はありますが、取り組み方については定められておりません。

委員 重層的支援体制整備事業は、いずれ必須事業になると感じています。今後たすけあい会議を設置する際に、この事業の視点を加えたほうが分かりやすいのではないかと思います。

委員長 任意事業ではありますが、日進市も取り入れていただければと思います。具体的にたすけあい会議といった協働ネットワークとどのような接点があるとお考えでしょうか。

事務局 様々な機関が地域をこえて協力連携をし、対象者の人を救っていく相談支援の部分が本市の計画のたすけあい会議に関係してくると思います。また、支え合いの人を生み出していく仕組みづくりという点では、地域づくりに向けた支援の部分にも関連するのではないかと考えております。

委員長 重層的支援体制整備事業について②に記載されている新の事業は、日進市が進め

ていこうと思っている事業なのでしょうか。

事務局 今後としては、相談支援体制の構築、それに関連する部署の連携体制を作る必要があると考えております。また、新の事業についても、困窮者支援については将来的に実施していく必要を感じています。

委員長 第1号～第6号というのは、重層的支援体制整備事業に際して国が示した内容だと理解しました。相談支援や地域づくりに向けた支援には福祉に関わることだけが対象で、にぎわい交流館の活動支援といったようなことは対象にならないのでしょうか。

事務局 既存制度の対象事業に記載されている事業は、既に国から交付金や補助金などが出ている事業になります。にぎわい交流館やNPO団体との協力連携については、この表の中には出てきていませんが、支援の体制づくりという点では検討対象の一つになるのではないかと思います。

委員長 対象事業等の解釈に関しては、自治体に委ねられているところだと思います。相談支援には、介護障害子ども困窮のみ記載されていますが、もう少し拡大解釈し、地域づくりに向けた相談や支援を対象事業に含めて良いのではないかと思います。既存事業の対象範囲を広げておけば、他の課を巻き込む根拠になるかと思いますので、そういった利用の仕方も検討してください。

委員 NPO法人をアウトリーチの団体として指定されるかどうか懸念があります。支援活動が一つのサービス事業として認められるのであれば、国はそれを助成金事業ではなく委託事業としてやっていくべきとの見解です。住民活動やNPO活動について、見直していただきたいです。大変なことを引き受けてくれている団体をきちんと認めてほしいと強く感じます。

委員長 重層的支援体制整備事業については、具体的にどう事業を進めていくのかを次年度に向けて検討していくことになると思います。もう少し日進市のオリジナリティを考えても良いと思いき、様々な人たちをネットワークに組み込むことは市の支援の仕組みづくり次第だと思います。

委員 議題1の補足になりますが、団体が抱えている問題点を把握できるようなアンケートにしてほしいです。高齢化や規模の縮小、思い通りに活動できないといった課題の中でどんな繋がりが欲しいのかを記述式でも構わないので、質問してください。

委員 議題1について、民生委員は個人で活動していますが、もう少し地区のサポートをいただき、地域の中で支援体制を確立させていく必要があると感じます。そういう形になるようにアンケートを活用できれば良いと思います。

委員長 団体ではなく個人で活動される民生委員児童委員も地域の貴重な資源だと思いますので、ご検討ください。  
他にご意見等ありましたら発言をお願いします。無いようですので、本日の議事は終了いたします。では、進行を事務局にお返しします。

事務局 それでは、「3その他」について、まず事務局から報告します。令和3年度第3回の委員会については、来年の3月を予定しております。開催日の1か月前には委員の皆様にご連絡いたしますのでよろしくお願い致します。  
その他、委員の方から何か報告や周知事項等がありますでしょうか。

委員 (たすけあい会議検討会の報告)

事務局 これで、令和3年度第2回日進市わたしのまちのしあわせづくり委員会は終了します。

(午後4時00分閉会)